

私が出会った子どもたち



私が今まで出会った子どもたちを紹介していきます。

子どもたちは大人が想像もしない言動で感動を与えてくれます。

子どもたちは、まぶしいほどの輝きでいつも大人を学ばせてくれます。

『にっこり』

小学校で二年生の国語の授業研究がありました。もちろん授業には毎時間その授業のねらいがあり、そのねらいにむけて授業が進められています。

授業中に、突然女の子が「先生、ここに書いてある『にっこり』と『にっこり』ってどこがちがうの？」と教科書を指差しながら先生に質問をしました。

教室の後ろにいた私もあわて

て、辞書で調べてみましたが、そこには、「にっこり」も「にっこり」も「声をださず、うれしそうに笑うようす。」と書かれてありました。教室の後ろにあつたもう一冊の辞書では「にっこり：楽しそうにほほえみを浮かべるさま。にっこり：にっこりと書かれてありました。「にっこり」も「にっこり」も同じなのです。

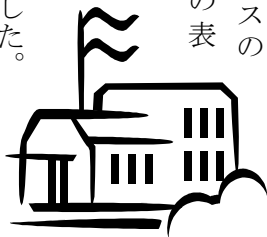
私が教室の後ろでこうして辞書で調べていると、一人の女の子が手をあげ、「先生、にっこりは、いっぱい、にっこりするんだよ。にっこりは、にっこりと短くするんだよ。」というのです。それを聞いて、今度は男の子が前に出て、「こうだよ。」とい

いながら、自分の顔で「にっこり」と「にっこり」の違いをみんなに伝えるのです。その男の子が席にもどりかけたときです。「あっ！」と小さな声を出して、別の女の子が手を上げました。「先生、わかった！

プレゼントをあげるときに『にっこり』するよ。プレゼントをもらうとき『にっこり』するよ。そうだよね。」と、大きな声で、クラスのみんなに話しました。その話を聞いたクラスの子どもたちは「そうだね。プレゼントをもらうときに、うれしくて『にっこり』するよ。あげるときは、なんかわくわくして『にっこり』しながらあげるよね。」と納得しているのです。

この女の子の答えに驚きました。プレゼントをあげるときと、もらうときの違いが、「にっこり」と「にっこり」の違いなのだという例に、私も納得をしました。

どんな辞書よりも、多くの人を納得させるものでした。この回答に、クラスの子どもたちの表情はとても明るく、授業も充実したものになりました。



大人が知識として知っていることを子どもたちに単に伝えていくだけでは、子どもたちはどれだけ理解し、納得するだろうかと気になる場所です。

子どもたちは日常の生活の中で、体験して身につけていくことがたくさんあります。文字だけでは納得できないものです。

この授業の中で、教師が「さあ、みんなで『にっこり』と『にっこり』を辞書で調べてみましょう。」と指示をしていたら、子どもたちはどのような反応をしたでしょうか？

「なんだ、同じ意味なんだ。」で終わってしまったかもしれせん。

子どもたちは大人が想像もできないほどのすばらしい発想をいつも持っています。

子どもたちの発想に感動で心が震えることがあります。

「子は宝です。」